

1

京子さんたちは、算数の時間に問題をつくって、話し合っています。

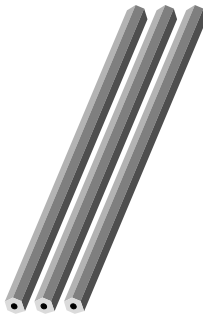
(1) 京子さんは、次の問題をつくりました。

えんぴつ 1 本の定価を求める問題

同じ定価のえんぴつを 3 本買って、500 円出しました。

おつりは 100 円でした。

えんぴつ 1 本の定価は何円でしょうか。



1 本 円

次に、京子さんは、この問題を解いて、下のように言いました。

えんぴつ 1 本の定価の求め方

$$500 - 100 = 400$$

$$400 \div 3 = 133.3\dots$$



京子

このままだと、えんぴつ 1 本の定価が整数になりません。
おつりの金額を変えます。

京子さんのつくった問題で、おつりの金額を何円に変えれば、えんぴつ1本の定価が整数になりますか。下の **1** から **4** までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 400 円

2 300 円

3 200 円

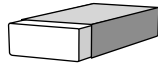
4 150 円

(2) 次に、京子さんたちは、下の問題のおつりを求める式を考えています。

おつりを求める問題

50 円の消しゴム 1 個と 1 本 150 円のえんぴつを 2 本買って、
500 円出しました。

おつりは何円になりますか。



1 個 50 円



1 本 150 円

直美さんは、おつりを求める式を、下のように入れて発表しました。

直美さんの考え

買ったものの代金

消しゴム 1 個

50

+

えんぴつ 2 本

150×2

= 350

おつり

出したお金

500

-

買ったものの代金

350

= 150

答え 150 円

直美さんの考えを聞いて、京子さんは次のように言いました。



京子

おつりを求める式は、

$$\boxed{\text{出したお金}} - \boxed{\text{買ったものの代金}}$$

なので、直美さんが考えた2つの式は、

$$500 - 50 + 150 \times 2$$

というように、1つの式で表すことができます。

すると、健太さんは下のよう言いました。



健太

京子さんの式だと、おつりが150円になりません。

() をつけば、正しく求められます。

おつりの150円が正しく求められる式になるように、**解答用紙**の式に () を書きましょう。